

令和5年度 秋期 プロジェクトマネージャ試験 解答例

午後Ⅰ試験

問1

出題趣旨	
プロジェクトマネージャ（PM）は、チームが自律的にパフォーマンスを最大限に発揮するように促し、支援する必要がある。そのためには、適切なマネジメントのスタイルを選択し、リーダーシップのスタイルを修整（テラリング）することが求められる。 本問では、過去に経験のない新たな価値の創出を目指すシステム開発プロジェクトを題材として、プロジェクトチームの形成、チームの自律型マネジメントの実現及び発揮するリーダーシップの修整について、PMとしての実践的な能力を問う。	

設問	解答例・解答の要点	備考
設問1	(1) 成果を随時確認しながらプロジェクトを進められるから	
	(2) 自分の考えや気持ちを誰に対してでも安心して発言できる状態	
	(3) メンバーは目的の実現に前向きな姿勢である状況	
	(4) メンバーの自発的なチャレンジが重要だから	
設問2	(1) 提供する体験価値に対するメンバーの思いを統一し共有するため	
	(2) メンバーが出資元各社の期待に制約されずにチャレンジできる環境	
設問3	知見や体験を共有して価値の共創力を高めるため	

問2

出題趣旨	
プロジェクトマネージャ（PM）は、プロジェクトの置かれた環境に合わせてプロジェクトを遂行し、その中で、自社だけでは遂行できない活動を外部組織に委ねることがある。 本問では、変化にさらされる環境において、計画重視の進め方から、変化に対応する適応力と回復力の強化に注力していこうとする状況下で、協力会社との新しい関係を考える場面を題材として、プロジェクトにおける協力会社とより良い共創関係となることが期待できるイコールパートナーシップについての実践的なマネジメント能力を問う。	

設問	解答例・解答の要点	備考
設問1	顧客価値に直結しない計画変更に掛ける活動が増加していくという課題	
設問2	どんなに資源を投入しても、納期に間に合わせることができない状況	
設問3	A社の視点を加えてほしいこと	
設問4	(1) 優越的な立場が悪影響を及ぼさないようにすること	
	(2) 最速で予兆を検知して、協調して対処する。	
	(3) a ooda	
	b 回復力	
	c 成果報酬 又は 成果完成	
	d インセンティブ・フィー	
	(4) 生産性向上のモチベーションを維持する。	

問3

出題趣旨	
プロジェクトマネージャ（PM）は、システム開発プロジェクトの目的を実現するために、プロジェクトのステークホルダと適切にコミュニケーションを取り、協力関係を構築し維持することが求められる。 本問では、化学品製造業における障害の予兆検知システムを題材として、ステークホルダのニーズを的確に把握し、適切なシステム開発のプロジェクトフェーズ及び開発アプローチを設定して、ステークホルダのニーズを実現する、PMとしての実践的なマネジメント能力を問う。	

設問	解答例・解答の要点		備考
設問1	ベテラン技術者の抵抗感を抑えプロジェクトに協力させるため		
設問2	(1)	技術者全員の不満解消になることを伝えるため	
	(2)	予兆検知に必要なデータを特定するコンサルティング	
	(3)	ベテラン技術者 機器類の予兆検知と交換・修理のノウハウを提示する。	
		中堅技術者 早い段階からシステムの仕様を理解し活用できるかを確認する。	
設問3	(1)	要件定義フェーズ 探索的な進め方になること	
		開発フェーズ 計画を策定し計画どおりに実行すること	
	(2)	中堅技術者がベテラン技術者の交換・修理のノウハウを継承するため	